

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム向陽台(3階・たけのこ)	評価実施年月日	平成 19年 10月 1日
評価実施構成員氏名	水谷 祐子 佐藤 知恵 塩田 宏枝	片岡 明美 木下 明日香 荒谷 往慎	泉井 直子 山口 綾子
記録者氏名	片岡 明美	記録年月日	平成 19年 10月 15日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念を作っており、その理念の中にも地域との結びつきを重視した項目を掲げている。	○	グループホームに対する地域での理解度を高める為及び交流の機会を持つ意味で地域の母子のサークルに入居者を参加させてもらっており、今後も継続して参加していく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	ユニット内に理念をわかりやすく掲示し、又会議等で理念について話し合いを行なうと共に職員が常に理念の主旨を念頭に置いた実践とサービス向上に努めている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族・地域の方へ毎月広報誌を発行し、その中でホームの理念を載せ理解してもらおう様取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	町内会の行事等に参加したり、毎月の広報誌を通じグループホームの現況等を知ってもらう様になっている。 最近では山菜やマフラーの差し入れがある等、地域の中でのつきあいが増えてきている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会の班長を勤めながら地域住民との繋がりを心掛けている。 又夏祭りや町内清掃等の地域活動にも出来る限り参加し交流に努めている。 更に、地元中学校の体験実習の受入れを行い、認知症高齢者に対する理解を深めてもらっている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	ケア会議に出席し、認知症ケアに関する情報や知識の収集に努めている。 又毎月の広報誌に認知症についての豆知識を掲載し理解度を高める働きかけを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>運営者がサービス評価の意義や目的を全職員に伝え、全職員で自己評価に取り組んでいる。</p> <p>又改善点については、全員で改善計画を作成し具体的な行動に移している。</p>	
8	<p>○運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>運営推進会議には家族や地域の方に参加してもらい、運営状況の報告と共に参加者から質問・意見等を受け、今後のサービス向上に向けた取り組みの一助としている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>地域ケア会議に参加し情報交換を行なっている。</p> <p>又市担当者とは相談窓口として各種相談を行い適切な助言をもらっている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度利用実績あるが、職員全員が理解しているものではなく、管理者等ごく一部の職員が理解しているのみである。</p>	<p>○</p> <p>制度の仕組み、内容及び活用方法等を研修会のテーマとして取り上げ職員全員の理解度を高めていく。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>現在のところ虐待等の事実は無い為、具体的な防止策は未整備の状態にある。</p>	<p>○</p> <p>今後万一発生した場合に備え、研修会等で法の内容や対応方法の理解度を高めていく。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>現在のところ虐待等の事実は無い為、具体的な防止策は未整備の状態にある。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段から入居者とのコミュニケーションを心掛け、意見・苦情等を気軽に出せる配慮をしている。 又出された意見等は今後の運営改善の材料にしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月、月初に広報誌や個人個人の近況の手紙、お小遣いの出入り等を文書にて報告している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱の設置の他、面会時や家族会等において率直な意見が出せる様配慮しており、出された意見・要望等はミーティング等で話し合い、反映する様を心掛けている。 又外部にも意見・苦情を出せる機関があることを契約時に重要事項の説明と共にこなっている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議・個別面談等職員の意見・要望を聴く機会を持つ様にしており、出された意見・要望は運営上の改善取り組みの参考にしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状況に応じ、勤務時間、体制を変更する等臨機応変の対応をとっている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	極力入居者にとって馴染みの職員が継続して支援する体制を取っているが、事業所内での移動を行なう場合には影響を最小限にするよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実践の習熟度に応じた外部研修受講を行なっている。又一つのテーマを職員全員で研究・勉強する内部研修会を定期的に行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域ケア会議に参加し情報収集や交流を図っているが、同業者間での交流は少ない。	○ 同業者間同士での相互訪問や会合等を通じて職員の交流機会を持ち、相互での情報交換やサービスの質の向上に努めていく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員同士で悩みを話し合える雰囲気作りが出来ており、個人面談等悩みを話せる場を設けている。	○ 職場全体で定期的に親睦の図れる機会を作りながら職員の気分転換と交流を図っていく。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	現場での勤務振りを見ながら個人個人の能力や勤務状況の把握に努めており、各人のレベルに合わせた向上心の意識付けに配慮した対応を行なっている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前面談時に困った事や不安な事を入居者本人からも聴き、その情報を入居前に全職員にも伝えることで情報の共有を行なっている。入居後も極力入居者本人と話をする機会を持ち、不安を取り除ける様対応しながら信頼関係構築に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	面談時に不安や困っている事を聴き、本人の意思と区別して把握する様心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前面談で本人や家族の不安や状況等を把握しながら、入居時の対応を相談していく中で信頼関係を築き、不安解消出来る様支援を行なっている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	事前面談や本人・家族のホーム見学等により不安を解消させながら、入居後の安心した生活出来る様家族と協力しての支援を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	共に生活している意識を持ちながら、年長者である入居者から教えてもらう場面作りを配慮している。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者、家族と共に困った事等の情報を共有し、又受診同行依頼等家族と共に協力しながら本人を支えていく関係作りが出来ている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	日頃ホームに来られない家族にも毎月手紙や電話にて入居者の近況を知らせながらより良い関係の継続に努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者本人の希望に応じ外出や会合に参加出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係がうまくいく様、職員が間に入り注意深く見守り支援している。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去してからも年賀状をもらったり、家族がホームに来て本人の現況報告をする等退去後も関わりを持っている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の生活の中で声かけや行動を見守りながら、入居者本人の希望や思いを把握する様努めている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの情報提供や本人の行動、言動等を基に本人のこれまでの暮らし等について把握する様努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	事前情報にとらわれず入居者本人の生活ぶり、言動、行動から出来る事、理解力等その入居者の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族の要望、入居者本人の希望を取り入れると共に、職員間で意見を出し合い、又ケアマネージャーとも十分な協議、意見交換をした上で介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3か月毎に見直しを行っており、又特変時、介護保険更新時にも見直しを行なっている。尚、その際入居者本人の状況に沿った見直しを行なっている。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録やケアプランチェック表等で情報を共有し、ケアプランの実践、作成を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	受診同行、医師との話し合い等家族の状況や要望に応じて柔軟な支援を行なっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	月に一度ボランティアの協力や、定期的に地元消防立会いによる消防訓練、民生委員の訪問を受ける等の協力を得ている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	月一度ボランティアの支援を受けたり、本人の体調や希望に応じ理美容訪問サービスを受入れる等の体制をとっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加しており、会議の中でホームに対する助言や各種情報の提供を受けている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	入居当初から基本的に本人の希望するかかりつけ医での受診を行なっている。状況により家族同行又は職員同行により対応しているが、受診結果等の報告することにより情報の共有を行なっている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	主治医からの情報提供書等を用いて、認知症に関連する他科への受診を行なっている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業所として看護職員を配置していない為、現在はかかりつけ医療機関担当看護師に相談し助言を受けている。	○	24時間体制で対応出来る看護師の採用を検討する。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院後は医療機関に常時本人の状況確認をしており、退院前には家族、医師、職員で話し合いの場を設けて退院後の円滑な支援が出来る様情報提供を受けている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	状況の変化に応じ家族、医師と話し合いを行ないながら、今後の方向性を明確にし、又方針の共有を行なっている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	対応が可能かどうか、不安な事は何か等を職員で話し合い、又家族の意向や医療機関との連携を図りながら体制作りを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	家族及び関係者に情報を提供し、スムーズな住み替えとダメージの軽減に努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入浴、おむつ交換、又個人居室への入室の際のノック、声かけ等、常に一人ひとりのプライバシーに配慮した対応を行なっている。		
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者の話を聞くことや表情を感じること等の対応で、本人の意思表示の場面作りを心掛けている。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせ、又本人の希望に沿った生活の支援を行なっている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	希望に応じ本人の望む美容室への対応を行っており、又理美容訪問サービスも月1回行い馴染みの関係が出来ている。		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作りに入居者の希望を取り入れ、又食事準備、盛り付け、片付け等一人ひとりの力に合わせた仕事を職員と共に行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	他の入居者に迷惑をかけない様換気に配慮した喫煙場所を設けたばこを日常的に楽しめる様にしている。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	入居者の排泄パターンを把握し、トイレへの誘導、声かけを行っており、又オムツ使用者に対しては定期的なオムツ交換を行なっている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者のその時の希望を尊重し、又健康状態等を考慮しながら入浴を楽しめる様支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者一人ひとりの体調や希望等を考慮しながらゆっくり休息出来る様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の能力に合わせ、出来そうな事への声かけやその場面作りを行なっている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理の可能な入居者は財布を携帯しており、訪問販売時には自身で代金支払いが出来る様支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	バルコニーで日光浴や買い物、ドライブ等戸外に出られる場面作りを行なっている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者本人の意見を取り入れながら外出行事を企画する様心掛けている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の能力に応じ、家族に電話又は手紙を出すことが出来る様支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族が気軽に訪問や宿泊出来る雰囲気作りを心掛けており、又リビングや居室内で職員と共に談笑出来る場面作りを心掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルを制定し、その内容について職員が共通の認識を持ちながらケアを行なっている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	入居者の心身状況を職員は認識しながら、見守りの徹底により鍵をかけないケアを行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は入居者を見守りやすい位置にて事務作業を行っており、又入居者の当日の状況を事前に把握した上で入居者一人ひとりに応じた巡回を行なっている。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の状態に応じて注意の必要な物品の使用例はあるが、誰にでも手の届く、目につく場所での保管は避ける様配慮している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態から予想される事故の未然防止策を職員間で共有して取り組んでいる。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	積極的に外部研修に参加し、知識、技術等を学んでいる。 又研修で学んできた内容について他のスタッフに説明し、知識の共有を図っている。	○	定期的に繰り返し応急手当の方法を訓練し、実践出来る様取り組んでいく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の消防署の協力を得て定期的に訓練を実施している。 又地域の防災訓練にも参加し協力を得られる様働きかけている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族と話し合いの場を設け、その中で家族の要望や入居者にとっての最善策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェック、日々の表情、行動等の観察を行ない、変化の兆候が見られた時はかかりつけ医療機関への相談・受診を行っており、又職員間での申し送り時に情報共有の徹底を図っている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬の内容や変更は連絡ノート、口頭及び説明書等により伝達、情報の共有を行なっている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	食事やオヤツに乳製品や繊維質の多い食材を取り入れる工夫をしている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	歯科医より指導を受けたり、職員間での勉強会等を通じ、口腔ケアの重要性を理解し個別に対応出来る様取り組んでいる。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	カロリー計算を栄養士に依頼しチェックしてもらっている。 又個別台帳に水分量、食事量を記録し、情報について職員が共有している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを基に研修等を行なうことでその知識を深め予防対策を講じている。		
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎日ふきん類やまな板、包丁等を消毒している。 食材も在庫チェックし、新鮮で安全な食材使用を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	花を飾ったり、ベンチを設置したりして、季節感を感じ親しみやすい玄関まわりを工夫している。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	リビング内にはゆったり座れるソファを設置し、居心地良く過ごせる配慮をしている。 又喫煙場所との距離を置き、それぞれが不快にならない様工夫している。	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	椅子やソファ、小さなテーブル等を配置し、入居者が好みに応じ好きな場所で自由にくつろげる様配慮している。	
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者それぞれの好みの家具や使い慣れた物を配置し、入居者の居心地の良さに配慮している。	
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度計、湿度計により定期的にチェックを行い、空調の調節を行なっている。 又喫煙場所には空気清浄機を設置している。	
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	入居者の身体状況に合わせ、居室内の手すり設置の個別対応を行なう等、安全確保と自立への配慮を行なっている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所、自分の部屋入り口に分かりやすい目印をつける等、混乱を最小限に止める工夫をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	バルコニーで日光浴をしたり、建物の外回りスペースで昼食をとる等、身近に外気に触れることが出来る工夫をしている。		



V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

介護するに当たり、入居者やご家族との情報交換を密に行いながら、常に入居者主体の支援を心掛けて日々のケアに取り組んでおります。